

植物油の原材料確保と表示

平成20年11月4日
社団法人日本植物油協会

植物油の原材料を 巡るお問い合わせ

- 1 . 油脂の原料はどこから確保しているのか
- 2 . 原料により品質や味覚に差異があるのか
- 3 . 原材料表示が、 “ 食用〇〇油 ” となっているのはどうして？
- 4 . 原材料の**原産国表示**はできないの？

植物油の原材料

植物油の原材料は、次の2群に大別され、これらが国際流通している

1 . 農産物 2 の粗油の原材料

油糧種子：大豆、菜種、ごま、ひまわり、
綿実、べに花、落花生等

果 実：オリーブ、パーム

副 産 物：米糠、とうもろこし胚芽

2 . 粗 油 最終消費製品（精製油）の原材料

1 の原材料農産物に含まれる油分を圧搾・抽出して得られた油

植物油原材料の確保

植物油原材料（農産物）の供給確保

- 1 . 供給余力のある国は限定的
一般的には、安定した供給力が維持
- 2 . 供給国が分散、生産力不安定
ごま

植物油の原材料農産物と産地

油糧原料	主な産地（日本への主な供給国）
大豆	アメリカ、ブラジル、アルゼンチン
菜種（カノーラ）	カナダ、オーストラリア、中国
とうもろこし	アメリカ、南アフリカ
米 糠	日本、タイ、インド、アメリカ
ご ま	中国、インド、ミャンマー、ナイジェリア、 タンザニア、スーダン、グアテマラ
綿 実	アメリカ、オーストラリア
べ に 花（油）	アメリカ
オリーブ（油）	イタリア、スペイン、ギリシャ、チュニジア
ひまわり（油）	アメリカ、ロシア、ウクライナ、アルゼンチン
パ ー ム（油）	マレーシア、インドネシア
や し（油）	フィリピン

原料原産国と植物油の品質

植物油の国際的定義

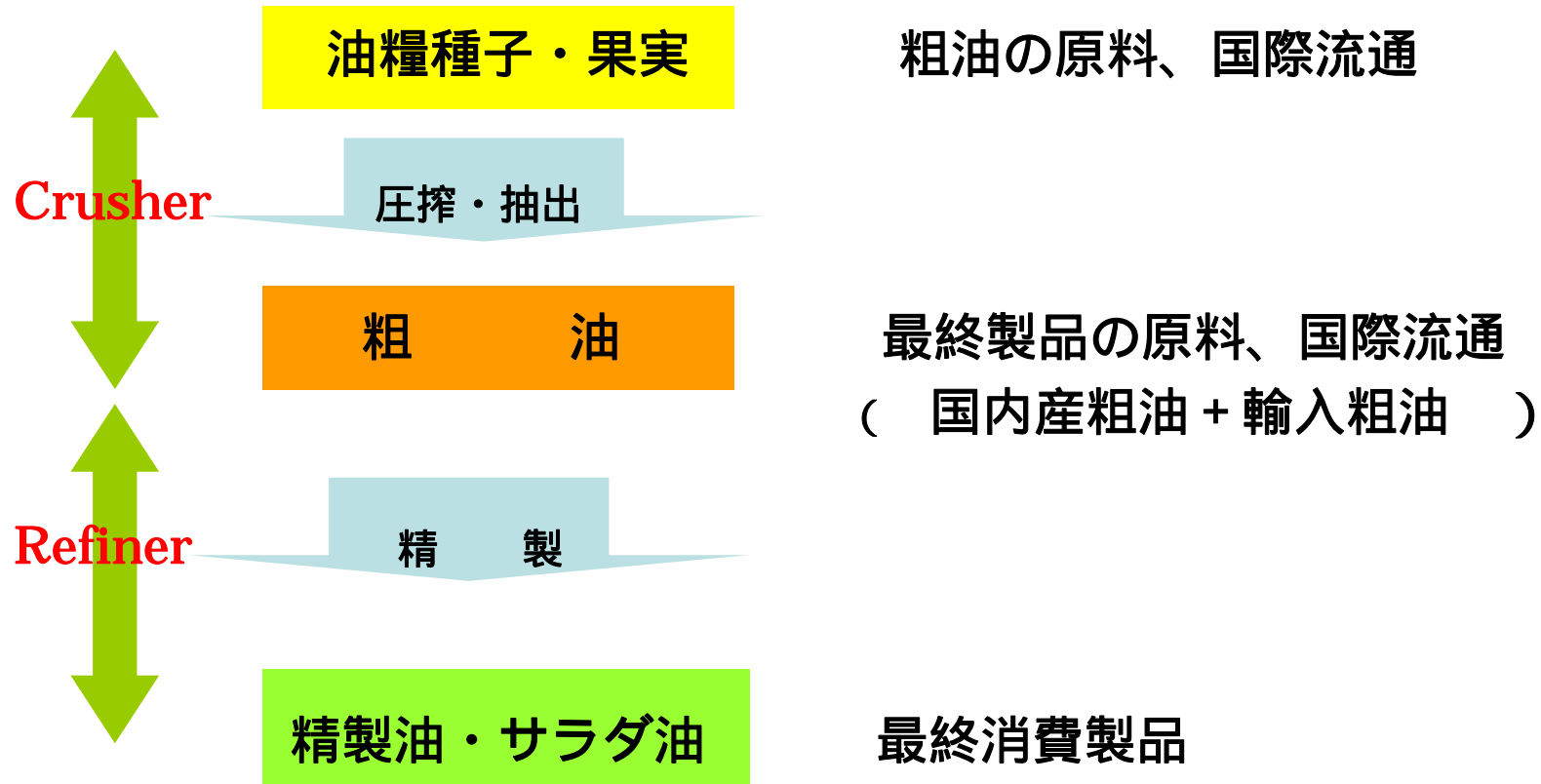
国際食品規格(Codex Alimentarius)の規定

「 植物体が含有する油分を搾出・抽出して得られたもの 」

食品の中で塩、砂糖（ともに結晶）に次ぐピュアな物質。原材料による品質、味覚の差はあるが、生産国による差は生じ得ない。安全性にも何ら差異は生じ得ない。

植物油の製造工程概念

植物油の製造は、次の2つの独立した工程に分かれる。海外では、それぞれが独立した企業、工場であることが一般的となっている。



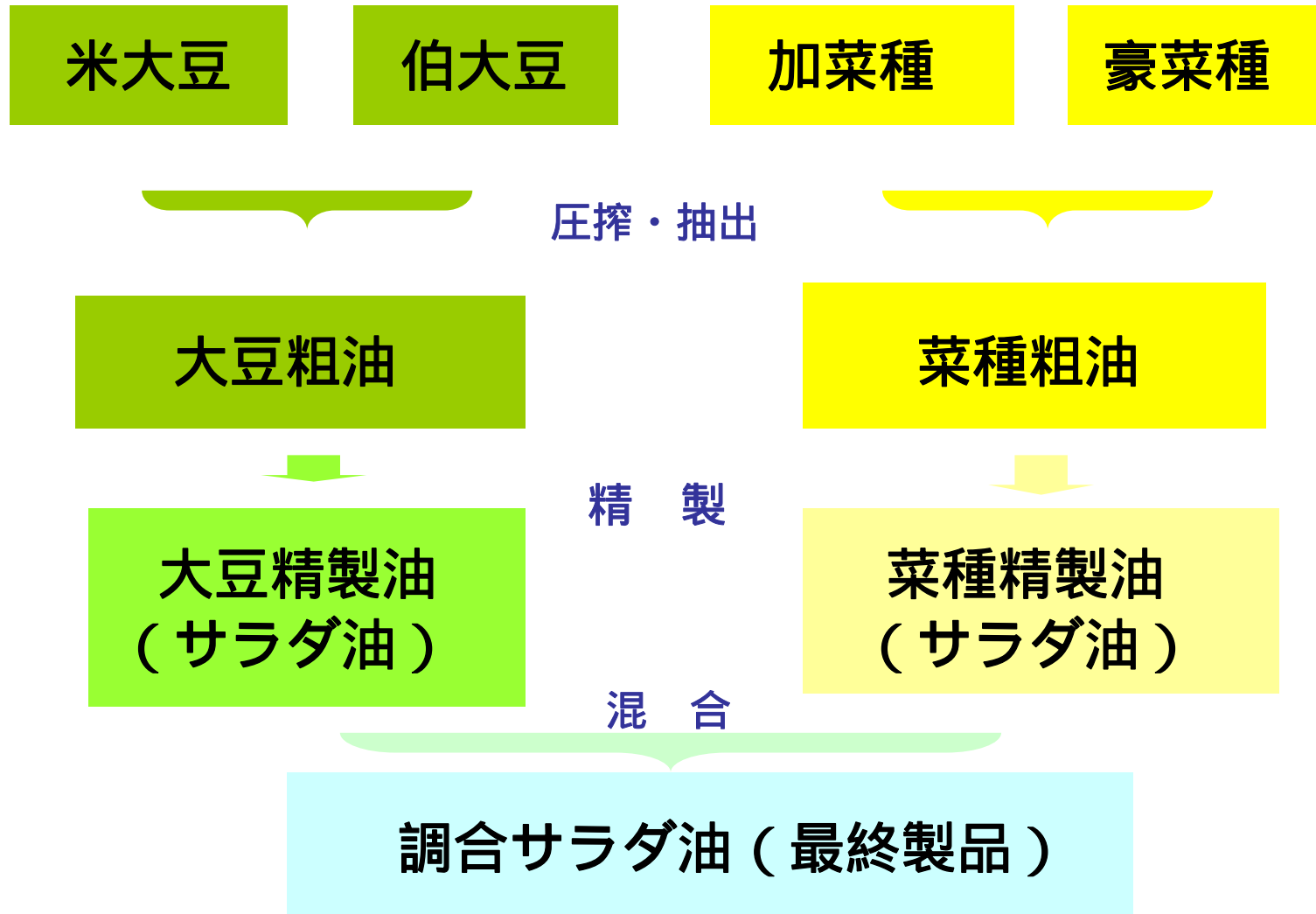
日本の植物油供給（平成19年、千トン）

	油の種類	国内で搾油	輸入した油	合計
種子から抽出	なたね油（カノーラ油）	943	18	961
	大豆油	576	42	618
	ごま油	45	3	48
	綿実油	6	6	12
	サフラワー油	0	14	14
	ひまわり油	0	21	21
	やし油	0	61	61
	パーム核油	0	73	73
	その他の油	5	65	70
副産物から抽出	コーン油	98	0	98
	こめ油	63	28	91
果肉から抽出	オリーブ油	0	30	30
	パーム油	0	532	532
	合計	1,736	888	2,624

植物油の原材料とは？

- 1 . 油糧種子・果実（農産物）は粗油の原料
油脂の貿易は粗油で流通が主流
- 2 . 最終消費製品（精製油・サラダ油）は、粗油を原料として精製して得られる製品
- 3 . 最終製品の原材料を“〇〇油”とするのは国際的ルール（**物材の性質が大きく変化する**）
- 4 . 国内の最終製品は、国内で圧搾・抽出した粗油と輸入粗油から製造される
アメリカから輸入した大豆粗油の原料は、アメリカ産大豆とは限らない

一般的なサラダ油の原料構成



* これに、更に輸入粗油が加わることがある

原材料表示の原則(JAS)

原材料は、重量の多い順に記載する

順序のミス → 法違反 → 製品回収

サラダ油（大豆油、菜種油混合）の場合

4カ国の順列組み合わせ
の数だけ表示が存在する

事実上不可能

ごま油の悩み

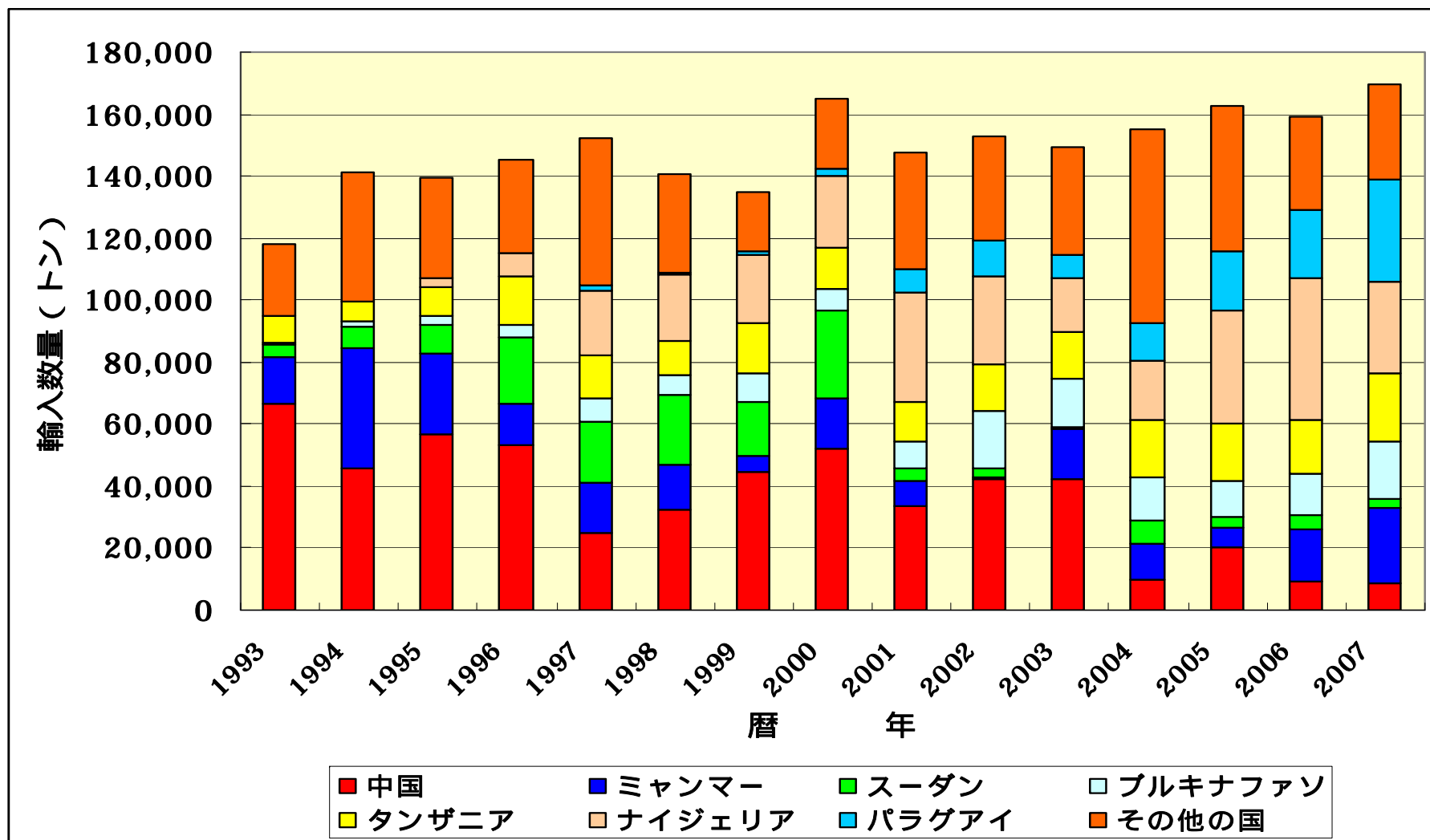
1 . 安定しない供給国

2 . 多岐にわたる供給国

過去10年間の延べ輸入先 48カ国
年平均輸入先国数 25カ国

	2000年	2001	2003	2005	2007
輸入数量 (千トン)	165	148	149	163	170
輸入先国数	24	31	29	29	24

ごま輸入量の推移

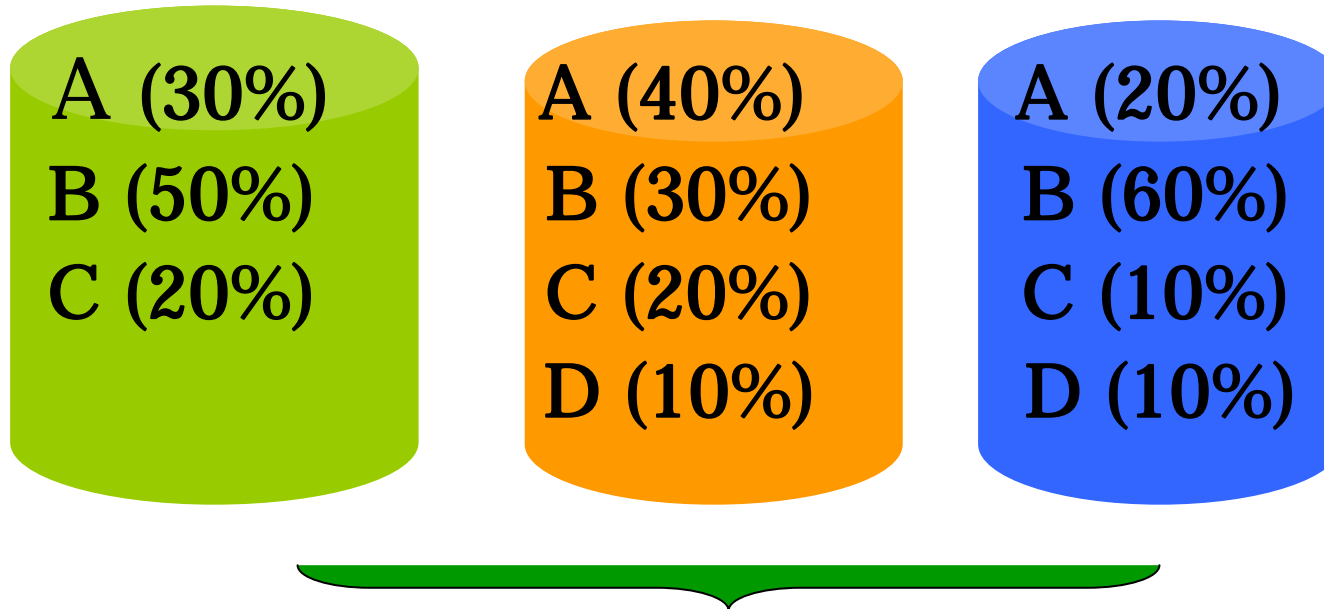


ごま油の製造モード

第1タンク

第2タンク

第3タンク



JAS規格に適合する品質にブレンドした最終製品

ごま油の原材料原産国表示

1 社が平均的に用いるごまの供給国 15～7カ国

供給先は毎年著しく変化（不安定な生産）



順列組み合わせによる表示パターンは無限大



表示違反の続出



ごま油供給の途絶

製油工場の技術上の問題

- 1 . 年間の原材料（油糧種子と輸入粗油）使用に関する厳密な製造計画と実施、これに即したラベルの過不足なき準備

一日当たり処理量が2,000トン、海外相場の変動を見つ
つ原料買付を行う装置産業には実行不可能

- 2 . ピュアな粗油、精製油を完全に分離するタンクの大量設置

歴大な敷地と設備投資、製品価格の上昇

- 3 . 輸入粗油の原材料に関する完璧な情報の入手

輸出先が拒否、国際ルールと異なることへの抗議